サナ エジプト出身の元キリスト教徒(半): クルア ンの力

明:

的キリスト教の女性が、クルア ンから疑 の答えを い出しますが、改宗 に友人や家族による困 に直 面します。

曰: 事新改宗者ムスリムの逸 女性

より: サナ

⊞13 Oct 2014

集日 13 Oct 2014

私の 手は震えが止まらなくなり、 には汗がにじみ出ました。私の全身はぞくぞくし、 自分でもその感 に きました。私は道端やテレビ、友人宅などで クルア ンを いたことが ありましたが、そうした感 は初めてでした。そのまま み けたいと思いましたが、夫が 扉の を ける音が こえたので手を止め、素早く クルア ンを し、急いで夫を出迎えました 。翌日、私は の中に膨大な疑 を抱えつつ出勤しました。私が んだ章句は、イエス(彼 に平安あれ)の った性 についての疑念を 拭させました。彼は、牧 たちが るように、神 の子なのでしょうか? 彼らが同位者とするもののすべてを超越する(至高なる)神に 光あれ! この章句はイエス(彼に平安あれ)が人 であると宣言し、もやを晴らします 。それゆえ、彼は神の子ではないのです。全能なる神はこう述べます。

私は唯一なる真 の神以外に崇 に する神はなく、ムハンマドが神の使徒であるという永 なる真理を知って以来、 状からの出口を模索し始めました。私はイスラ ム改宗の事 を 公言出来るだろうか? 私の 戚や夫の反 はどういったものになるだろうか? さらに、子供たちの将来はどうなるのだろうか?

これらの疑 は私の心を い、仕事が殆ど手につきませんでした。おそらく第一 を踏み出

すことによって、私は 戚や夫、教会から 害されるといったような大きな危 に晒される ことになるでしょう。

数 に渡り、私は人から距を置いてごしました。私の同僚たちは、私を活な人物としてていました。私はクルアンをいた日から、殆ど仕事が手付かずになっていました。やがて、待ち望んでいた日が来ました。その日、私はあらゆる疑念や恐怖を振りい、不信仰のから信仰の光の中へとけだしたのです。その日、意したことに思いを巡らせながら、仕事中に席についていた私は、ムスリムがズフルの礼をし、主にまみえることを呼びかけるアザンの声をきました。呼びかけ人の声は私の魂に完全に染みみました。私は探し求めていた精神的な放を感じました。その瞬、私は自分の中のイマン(信仰心)をしけた自分の不信仰の罪の重大さをしました。それゆえ、私は躇することなく立ち上がってこう宣言したのです。「私は、唯一なる真の神以外に崇にする神はなく、ムハンマドが神の使徒であると宣言します」

完全に仰天した同僚たちは、 に嬉し を流しながら私に けつけ、祝福してくれました。 私もわっと泣き出し、神が私を赦し、私にご 悦してくれるよう していました。この知らせは官 事 所の隅々にまで行き届きました。キリスト教徒の同僚たちがそのことを知ったとき、彼らはわざわざ私の家族と夫にそのことを密告しました。彼らはまた、私の改宗の直接の理由についての噂 を流し始めました。私はこのことは にしていませんでした。私にとって最も重要なことは、イスラ ムの改宗について公言することだったのです。私は(エジプト人がイスラ ムに改宗する に 付けられるように)警察本部へ行き、この件について公式な手 きをしました。 宅すると、私は夫がその知らせについて知るやいなや、 戚を集め、私の衣服をすべて燃やし、私の所有していた金 、ジュエリ、家 道具のすべてを差し押さえていたことを知りました。そのことは私を つけました。しかし、私をもっと つけたのは、彼が子供たちを れ去ったことでした。彼はそうすることにより、私を不信仰の に れ したかったのです。私は子供たちについて非常に悲しみ、彼らが三位一体を信じながら教会に通って育つことにより、その父 と共に地 に落ちてしまうことを怖れました。

私は子供たちをイスラ ム的に育てることが出来るように、彼らを取り してくれるよう神に しました。神はそれに答えてくれました。あるムスリム男性が、子供たちの保 督を える方法を教えてくれたのです。私は法廷へ行き、裁判官の前でこの件を提 し、自身のイスラ ム改宗 明 を提示しました。法廷は真 を支持してくれました。裁判官は夫を召 し、2つの 肢を与えました。それは、イスラ ムに改宗するか、婚姻 を解消させるかのどちらかです。イスラ ム法においては、ムスリム女性が非ムスリム男性と 婚することは 可されていないのです。夫は傲慢にも真の宗教への改宗を拒否しました。その 果、裁判官は私たちの婚姻 の解消を命じ、私に子供たちの を与えてくれました。子供が分年に しない 合、法はムスリムの に保 者としての 利を与えます。

私は、これで が解 したと思いました。しかし、前夫と 族からの冷遇に私は まされていました。彼らは私の自信を し、名誉を つけるために噂を流しました。また彼らは他のムスリム家族が私を助けたり会 したりしないよう 得しようとしていました。そうしたやっかいな状 にも わらず、私は真の宗教のために くあるよう心がけ、信仰を固く守り、あらゆる を り越えました。私は 手を げ、困 に直面した の助力を授けてくれるよう、そして人生を容易にしてくれるよう天地の 造主である神に祈りました。最も近く、最も 大である神はそれに答えてくれました。4人の娘、1人の息子を持つあるムスリムの未亡人が私に同情してくれ、私の勇 を称 してくれました。彼女は しかったにもかかわらず、素晴らしい性格を持ち、一人息子で、妻を亡くしていたムハンマドを私に 介してくれました。

在、私はムスリムの夫、彼の家族、そして子供たちと幸せに暮らしています。私たちの生活は苦しいものの、人生に 足しており幸福です。前夫の憎 、キリスト教徒の家族らによる 意も、私がそうされたのと同じように、彼らが正しい宗教に かれ、彼らに慈悲深くあるよう全能なる神に常に祈らずにはいられません。

神にとって、それは して しいことなどではないのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1181

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2024 IslamReligion.com. 断 を禁じます。